

# 軸となる取組・活動1 「学力向上の取り組み」

## 義務教育卒業時につけたい力<学力向上>

- 基礎・基本的な知識を有し、その知識を活用・表現することが出来る力
- 探究心を持ち、問題解決に向けて粘り強く取り組むことが出来る力

## 学年または学年区分ごとにめざす姿

1 st stage	2 nd stage	3 rd stage						
●学び方を学び、自分から進んで学習に取り組む	●基礎・基本的な知識が定着している ●自学自習の習慣が身につき、それを実践しようとする	●学んだ知識を活用し、自分の考えや意見をまとめたり、発表・表現することが出来る ●自分から課題を見つけ、その解決に向けて、自ら学習を企画し、実践していくことが出来る。						
小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）

## 取組・活動

### <京北第一小学校の取組>

- \* 学習規律の確立と徹底正しい姿勢で学習する。授業始まり、授業終わりのあいさつの励行。話し方指導などの徹底。授業時間を確実に確保するために、「ベル着」についても指導・徹底する。
- \* ぐんぐんタイム（火・水・金10分間）において、計算・漢字・言葉の反復練習をしたり、問題データベースを活用したりして、基礎基本の学力の定着を目指す。
- \* 教師主導の授業から、子ども中心の学習への転換を目指す。
- \* 学年に見合った内容と時間の家庭学習が実践できるように働きかける。自ら課題を見つけたり、探求活動をしたりする「自主学習」の奨励・推進を行う。

### <京北第二小学校の取組>

- \* 算数科を中心とした実践研究に取り組み、その成果を普段の授業に生かす。児童が主体的に課題解決をしようと意欲を高めることのできる導入の工夫、集団解決の場の充実、課題解決的な学習の過程に沿ったノート作りの定着、まとめ・振り返りの内容の明確化と確実な実施などに重点をおいて取り組んでいく。
- \* 基礎的基本的な知識・技能の習得。学習タイムを活用して反復練習を徹底したり、習得に向けての学習を意欲的に取り組めるように全校で漢字大会や計算大会に取り組む。家庭学習の充実を目指す。
- \* LD等通級指導教室、総合育成支援員の活用はもとより、日々の授業における個別の支援の工夫にも取り組んでいく。

### <京北第三小学校の取組>

- \* 授業改善。教師の意図的な仕掛け・工夫により、児童の興味・関心・意欲を引き出せる授業を展開する。授業の流れに合わせた板書計画を立て、ノート指導も徹底する。一人一人の課題を確実にとらえ、個に応じた支援の手立てを工夫する。研究主任中心にミニ授業研究を行い、自分の授業を公開し、アドバイスをもらう。
- \* 大杉っ子タイム（帯時間）の学習内容を基礎・基本を習得する時間とし、最後まで徹底してやりきらせる。漢字大会・計算大会を定期的に行い、漢字力・計算力の向上を図り、児童に自信をつけさせて、学習意欲を高める。家庭学習の内容や方法を交流し、学力の定着に効果的な家庭学習を全校で取り組む。

### <周山中学校の取組>

- \* 進路学習・校外学習・高校調べなど、テーマに基づいた調べ学習を行い自ら課題を解決する力を養う
- \* 小グループによるアクティブラーニングを全教科で取り入れ、互いの学び合いの場を常に設定する
- \* 家庭学習ノートを活用した家庭学習の充実
- \* 朝読書の実施と共に、全生徒が長文を書くことが出来るような指導を行う

## <中学校ブロックとしての共通の取組>

- ★ 京北「学びのてびき」、「自学自習のすすめ」の改訂版を作成し、小学校から中学校まで一貫した学習方法の習得や、自学自習の習慣作りを進める
- ★ 様々な取り組みを通して、基礎・基本の徹底を図る
- ★ 家庭学習の時間が少なく、定着も不十分であるので、小中で共に家庭学習の定着に向けた宿題・ノート指導・自学自習の定着に向けた取り組みを進める
- ★ 発達年齢に応じた、グループ活動・グループワークの方法に対する研究と実践を進め、小中でスムーズなアクティブラーニングが行えるように、取り組んで行く
- ★ 発達段階をふまえながら育てたい学習習慣・学びのルールづくりを推進する
- ★ 小学校の英語科導入に伴い、中学校の英語科教員がTTの形で小学校に訪れ、指導法について連携する取り組みを進める。また今後、低学年からの英語教育のあり方や実践方法について協議を進める
- ★ 京北地域に数多く存在する文化的・人的・自然の財産を活用し、ゲストティーチャーを招いたり、地域の取り組みと連携したりして、児童・生徒の京北に対する理解や主体性を育てることで、京北の課題や進むべき方向性を自らの生き方の中で考えさせる取り組みを進める

## <小中一貫校創設に向けた取組>

- これまでの小学校の合同行事に加えて、学年毎の合同学習や、小学生・中学生全部が一堂に会する合同学習を推進する。
- より高い学力を育成するため、小中一貫校のメリットである、小学校高学年を中心とした「専科教育」を想定し、中学校教員の小学校での授業を推進する。小学校英語科の導入を次年度に見据え、本年度より5、6年生の英語科教育を中学校教員がT1またはT2として関わる他、3、4年生の英語活動にも参画する。また、図工・音楽も中学校の教員が担当し、専科教育を進める。音楽科については、中学校の音楽祭に小学生全員が参加する合同行事に向けて取り組みを進める。
- 低学年部会・中学年部会・高学年部会・総合育成支援部会ごとに公開授業を設定し、小小連携・小中連携の取り組みを推進し、授業力の向上に努める。その他に人権教育・道徳教育の公開授業も相互に設定する。
- 年2回の4校合同の全体研修会を企画し、地域を知るためのフィールドワークの他、道徳・学力・生活指導・人権教育・英語活動の各部会に分かれて情報交換や協議を行う。とりわけ学力部会では、学力の分析・家庭学習の定着・学びのルール作りなど学力向上に向けた具体的な情報交換や方針、取り組みを協議する
- 4校による京北校長会を月一回開催する他、京北教頭会・京北教務主任会・京北研究主任会などを定期的・臨時的に開催し、学力向上に向けた取り組みや軌道修正などを日常的に行える体制を確立する。また京北地域総合育成支援部会を年2回開催し、保育所も含めて支援を要する生徒の一貫した支援の体制づくりや情報交換に努める。

# 軸となる取組・活動1 「豊かな心の育成」

## 義務教育卒業時につけたい力<豊かな心の育成>

- 京北の大自然を愛し、地域や保護者の見守りを感じ取ることが出来る力
- 自尊感情を持ち、友達や周りの人との関係・コミュニケーションを大切に出来る力

## 学年または学年区分ごとにめざす姿

1 st stage	2 nd stage	3 rd stage
<ul style="list-style-type: none"><li>●京北に対する愛着を持ち、地域で育つ喜びを感じる</li><li>●誰とでも仲良くし、自分の良さを大切にする</li><li>●周りの人への思いやりやはたらきかけが出来る</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●京北の良さを様々な場面で発信できる</li><li>●自分と違う考え方や意見に耳を傾け、解決していくためのコミュニケーション力が持てている</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●社会における自らの役割や将来の生き方・働き方を考え、進路の選択・決定をすることが出来る</li><li>●自らの生き方の中で、京北の課題や未来の姿を構想し、京北地域の活性化に貢献しようとする</li></ul>
小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）

## 取組・活動

### <京北第一小学校の取組>

- 道徳の授業で扱った主題名、内容項目、教材名をカードに記し、四つの視点にわけた台紙に貼る取組を行う。毎週の道徳の時間を大切にし、道徳における重点目標を意識しながら35時間確実に授業を行えるようにする。

- 道徳の授業で使用した教材に関する指導案やフラッシュカード、挿絵などをまとめ、今後の授業に生かせるようにストックする。

### <京北第二小学校の取組>

- たてわりを活かした、掃除・遊びなどの色別活動を通して、学年・男女を問わず仲良く協力することが出来るようになる。

### <京北第三小学校の取組>

- 体験活動や地域の自然・人々とのふれあいを通じて視野を広げるとともに、地域の一員としての自覚を高め、人の役に立つ実体験を重ね、豊かな地域社会を築こうとする自立心とたくましい実践力を持った児童の育成に努める。

- 「なかよしタイム」を活用し、他学年との交流の場で心身の調和のとれた発達を図り、実践的な態度を育てる。

- 道徳に関する指導案や資料などをまとめ、次年度に他の担任が授業に生かせるようにストックする。

### <周山中学校の取組>

- \*立志式を開催し、自らの生き方を自覚させる
- \*進路学習・高校調べ学習などを通して、自らの生き方や進路について考えさせる
- \*ファイナンスパーク学習・生き方探究チャレンジ体験などを通して、キャリア教育を進める

## <中学校ブロックとしての共通の取組>

- ★京北を題材とした道徳教材を活用・開発し、京北への愛着・京北で暮らす人々への思い・京北の良さや課題などを常に意識できるような取り組みを進める

- ★各小中学校で、それぞれ道徳の研究授業を行い、よりよい道徳教育を研究すると共に、小中が連携した道徳教育のあり方を研究する。本年度に関しては、京北第一小学校が、文部科学省の道徳教育の研究指定を受けたこともあり、京北第一小学校の全学年の道徳研究授業を中心に、研修を進める。

- ★京北地域に数多く存在する文化的・人的・自然の財産を活用し、ゲストティーチャーを招いたり、地域の取り組みと連携したりして、児童・生徒の京北に対する理解や主体性を育てることで、京北の課題や進むべき方向性を自らの生き方の中で考えさせる取り組みを進める

- ★三小学校合同の行事や授業、あるいは中学校との合同の行事などを多く設定し、これまで学んだことを活用して他者に発信していく力を育てると共に、他校の前で発表したりすることで表現力やコミュニケーション能力の育成を図る

## <小中一貫校創設に向けた取組>

- 中学校の生徒会リーダー講習会・音楽祭などに小学生の参加を企画し、9年間の学びの中で豊かな心の育成を目指す。
- 小中一貫教育プロジェクト「道徳教育部会」において、小中一貫を見通した道徳教育のあり方、評価方法など連携を推進する。
- 小中一貫教育プロジェクト「学力部会」において改訂を進めている「京北学びの手引き」を中心に、京北9年間を見通した学びのルールやモラル・マナーなどの統一をはかる。
- 教職員自らが京北の良さや現状を知るため、4校合同の研修会でフィールドワークや講演会などを企画し、見識を深める